

平成27年8月5日

平成27年

第8回大田区教育委員会定例会会議録

大田区役所 201・202・203会議室

平成 27 年第 8 回大田区教育委員会定例会会議録

平成 27 年 8 月 5 日（水曜日）

1 出席委員（6名）

尾形 威 委員	委員長
芳賀 淳 委員	委員長職務代理者
横川 敏男 委員	
藤崎 雄三 委員	
鈴木 清子 委員	
津村 正純 委員	教育長

2 出席職員（22名）

教育総務部長	松本 秀男
教育総務課長	水井 靖
副参事（教育政策担当）	曾根 暁子
副参事（教育施設担当）	酒井 敏彦
学務課長	森岡 剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	菅野 哲郎
副参事	長塚 琢磨
学校職員担当課長	佐藤 國治
教育センター所長	岩田 美恵子
大田図書館長	五ノ井 巖暢
指導課 統括指導主事	田井 俊行
指導課 統括指導主事	岩崎 政弘
指導課 統括指導主事	小林 繁
指導課 指導主事	山本 浩司
指導課 指導主事	木下 健太郎
指導課 指導主事	志賀 克哉
指導課 指導主事	中治 謙一
指導課 管理係長	佐藤 裕樹
指導課 管理係 主任主事	唐澤 毅
指導課 管理係 主事	神津 智哉
教育総務課 庶務係 主任主事	卯木 一嘉
教育総務課 庶務係 主任主事	小島 浩二

3 日程

- 日程第 1 教育委員の報告事項
- 日程第 2 平成 28 年度使用大田区立中学校教科用図書採択について
- 日程第 3 部課長の報告事項
- 日程第 4 議案審議
 - 第 55 号議案 平成 27 年度第二次補正予算要求原案について

~~~~~

(午後 2 時開会)

### ○委員長

ただいまから、平成27年第 8 回教育委員会定例会を開催します。

本日は、中学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員の出席も求めています。

それでは、本日の会議に出席する職員の氏名の読み上げをお願いいたします。

### ○事務局職員

本日の出席職員の氏名を読み上げます。

松本秀男教育総務部長、水井靖教育総務課長、曾根暁子副参事（教育政策担当）、酒井敏彦副参事（教育施設担当）、森岡剛学務課長、菅野哲郎指導課長、長塚琢磨副参事、佐藤國治学校職員担当課長、岩田美恵子教育センター所長、五ノ井巖暢大田図書館長。

指導課からの出席でございます。田井俊行統括指導主事、岩崎政弘統括指導主事、小林繁統括指導主事、山本浩司指導主事、木下健太郎指導主事、志賀克哉指導主事、中治謙一指導主事、佐藤裕樹管理係長、唐澤毅管理係主任主事、神津智哉管理係主事。

この後、傍聴人の誘導並びに会場整理で参加いたします。教育総務課から卯木一嘉庶務係主任主事、小島浩二庶務係主任主事。

以上22名でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

### ○委員長

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

### ○事務局職員

本日は、傍聴希望者が212名おります。

傍聴の定員は、大田区教育委員会傍聴規則第 5 条により16名と規定されておりますが、同条ただし書きに「委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる」との規定がございます。

本日は、傍聴人を90名まで受け入れられるよう、椅子を用意してございます。増員についての御協議をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

### ○委員長

今、事務局から説明があったとおり、本日は定員を超える傍聴希望者がおります。これは、教科書採択への区民の関心が高まっているためだと思われれます。

私としては、区民の関心に応え、公平・公正な開かれた教科書採択を行うために、大田区教育委員会傍聴規則第 5 条ただし書きにより、本日の定例会における傍聴人の定数を90名に増員し、定刻までに傍聴を希望された方に傍聴を許可したいと考えます。委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

傍聴を許可することにいたします。

(傍聴者入室)

○委員長

それでは、大変お待たせいたしました。

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、又は拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。御協力のほど、よろしくお願いいたします。

次に、会議録署名委員に鈴木委員を指名します。よろしくお願いいたします。

それでは、日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育委員の報告事項」となっておりますが、本日は特段の報告事項はございません。よろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。

では続いて、日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第2は、「平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を行います。

前回、第7回定例会において教科用図書調査委員会 加藤委員長から調査報告がありました。各委員には、教科用図書をお読みいただくとともに、調査報告及び区民・学校意見を参考に、真摯に調査・研究を進めていただいたことと存じます。

今回の教科用図書採択の審議対象は9教科15種目です。前回の第7回定例会において、審議は、本日の定例会と6日、7日の臨時会において行う旨を申し上げましたが、再度検討した結果、審議は本日と明日6日の2日間とし、7日は予備日としたいと存じます。これについて御異議のある方はいらっしゃいますか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

御異議ないものと認め、審議は2日間といたします。

まず本日は、国語、書写、社会(歴史)、社会(公民)、社会(地理)、地図の6種目について審議を行います。審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日に繰り延べるということではいかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

## ○委員長

それでは、種目ごとに審議を行ってまいります。

はじめに、国語について審議します。国語の発行者は、5社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

## ○教育長

国語につきましては、私は、「J」を推薦したいと思います。

理由ですけれども、3点申し上げます。

第一に、教科書冒頭で、学習者に対し丁寧なガイダンスを行っており、見通しを持って学習に取り組むことができること。また、必要に応じてそこに立ち戻って学習のポイントを確認できることが挙げられます。

第二に、「声を届ける」、「書き留める」、「調べる」などの学習活動で、その留意点などが丁寧に記載されています。

第三に、取り上げている題材が、例えば中学1年の教科書では、『花曇りの向こう』『星の花が降るころに』など、学習者の心理に沿うものが選ばれており、気持ちを込めて学習することができると思います。

私からは以上です。

## ○鈴木委員

私のほうは、学習効果測定を参考にいたしまして、漢字を覚えるにあたり、漢字の意味を理解すること、また、課題文をしっかりと読み取った上で解答ないし自分の考えを書くことなどを身につけることが必要であることを意識いたしまして、学習の進め方等を比較してみました。

まずは、「F」「J」「E」の3社に絞って比較をいたしました。結果といたしましては、「J」を推薦いたします。

「J」については、基礎となる漢字の習得について、1年生のところで小学校で学習いたしました漢字一覧がございます。学習指導要領では、漢字に関する事項の中で、文や文章を使うこととしています。意味をしっかりと理解した上で、一つでも多くの漢字をマスターすることだけでも少なからず自信が出てくるかと思えます。

こういった点で、「J」を推薦いたしました。多々ございますけれども、このことを申し上げておきたいと思えます。

以上です。

## ○芳賀委員

私は、国語は「F」がよいと思っております。

私は、やはり人生を生きていく上では、読書が大事であると思っております。率直に言えば、中学生ならば、仮にその時点で学校の成績がよくなかったとしても、本さえ読めればそのあと何とかなると、そのぐらいに思っております。

そういう意味で、国語の教科書というのは読書の楽しさ、おもしろさを伝え、もっと読んでみたい、あるいはもっとその感想を人にしゃべってみたいという意欲を刺激するもの

であってほしいと、そのように思っております。

五つ教科書があるわけですが、重複して採用されている作品というのが、実は結構あります。中でも、5社全てに採用されている作品が三つあります。ヘルマン・ヘッセの『少年の日の思い出』、太宰治の『走れメロス』、魯迅の『故郷』です。作品が同じですから、本文は皆、同じなのですけれども、本文の後の解説や手引きは、各社で相当に違います。

『走れメロス』を例にしますと、今、ほかに支持する御意見が出ている「J」社では、「人物像の変化を捉える」という見出しに続けて、「どの場面で、どのように変化したかを捉えながら読むと、作品をより豊かに味わうことができる。『走れメロス』では、人物の描写や会話、心の中の言葉などに目を向けると、どの場面で、どのように、なぜ変化したのかが読み取りやすくなる。」となっています。5社の中でも、「J」社の解説や手引きというのは控えめで、中立的な指摘になっています。これはほかの作品についてもそうですし、そういう方針なのだろうと思います。もちろん内容的には正しいのですけれども、私が中学生であったならば、あえてその手引き欄を、興味を持って読むことはしないだろうな、という感想を持っております。

これに対しまして、「F」社は、大きな図のある1ページを使って「視点人物 世界が違って見えてくる」という見出しに続けて以下のように述べています。「ふつう、読者は視点人物の側から小説を読み進めます。それは作者の考えにそった読み方です。しかし、あえて視点を変えると、ふつうの読み方では得られない発見に出会うことがあります。

『走れメロス』の場合、視点人物はメロスですが、王様のディオニスの視点で読むと、新たに何が見えてくるのでしょうか。」として、メロス、ディオニス王、あと、セリヌンティウスの三角形の図を示しながら、その視点を変更することで本の読み方が変わるということをはっきり提示しています。

私は五つの教科書の中で、この手引きに一番刺激を受けました。『走れメロス』というのは、皆さん御存じのとおり、読書感想文の課題とされることも多いのです。私自身も、40年近く前に書いています。そのときに、こういう刺激を受けていたら別の感想文を書いたなど、そういうふうに思っています。

今、引用したのは、「F」社の教科書の随所にある「読み方を学ぼう」というコーナーページの一つであって、このコーナーはこの教科書の最大の特徴だと思っています。いずれも読書の楽しみ方の多彩さを、中学生の目を引く形で積極的に示しています。

5社の教科書というのは、先ほど述べたように、掲載されている作品はかなり重複しています。他方、独自の作品についても、その質はいずれも高く遜色ないと思っております。

だとすれば、読書について具体的に刺激する工夫をしている教科書がよいと考え、私は「F」社を推すことにしました。

以上です。

## ○藤崎委員

まず、国語に限らないですが、私の観点を先に申し上げます。

教科用図書調査委員会の委員長からも御報告を受けたのですが、まず大田区の子ども、中学生にとって何が大切なのかというようなやりとりが前回あったと思うのですが、そこでいただいたお言葉と、なるほどと私が思っているのは、まず、基礎・基本、ここをしっ

かりと押さえておく、加えて、それを生かした将来への活用、この2点というのは、どの教科においても、私の中では根底に置いています。

特に、1年生から3年生まで使うような教科書の場合は、原則1年生では基礎・基本がどれだけしっかりしているか。3年生に上がるにつれ、どれだけの広さといえますか、深みというか、どういう題材を使っているかというのを、まず大前提に置いています。

その際、国語ということになった場合に、大田区の子どもたちにとって、ここちょっと力点を置いてほしいという、結果として数字でも挙がってきているのが、先ほど鈴木委員もおっしゃった「漢字」ということで、これを形として暗記するのではなく、その意味合いは何なのかということと、文章の中でどうやってそれを使い込むのかという、ここが少しまだ弱いという点と、それから、書く機会をもう少し増やすべきではないかと。読むこと、それから話すこと、聞くこと、これに絡めてどれだけ書くことというのを授業の中でも取り入れていけるだろうかというのが、数字の中からも読み取られているということになりますので、この2例にポイントを押さえ、私が考えたのは、結論から申し上げます「F」社になります。

「F」社の場合は、一番巻末に漢字がまとめて置いてあるのではなく、各所に散りばめられており、単元が終わるたびにそこで使われた漢字を中心に、一つ一つ習得をしていくという工夫がされていること。それから、「話す、聞く、読む」というものに加えて、「書く」ということを与える機会を教科書の中で散りばめている、この2点をもって、基礎・基本と将来の活用というものに加えて、大田区の中学生のためにということで、私は「F」社を推したいと思います。

## ○横川委員

私も最初に、私はどういう観点で教科書を全般的に選んだかということ、今、藤崎委員がおっしゃったようなことと同じことなのですが、大田区の中学生にとって最も最適な教科書、それはどれかということです。

しかしながら、これだけの教科書がたくさんありまして、ここから短時間のうちに選ぶということは非常に我々にとって苦しい作業でございました。そして、これらが検定を通っているのも、どれも遜色ないなという感想も持ちました。

そういった中で、さらにこの中から大田区の中学生の子どもたちに最適な教科書を選ぶ、これはどうやったらいいかということで、私も参考にしたのが、大田区学習効果測定結果に基づいた授業改善のポイントという、平成26年版の資料でございます。

これを見ると、大田区の中学生は他県の子どもたちに比べてどのくらい足りないのか、何が足りないのか、というのがある程度わかります。

それから、学校現場の先生方の意見も多少は参考にさせていただきました。多少というのは、ちょっと語弊があるかもしれませんが、見ていくと、なるほどという意見もあるし、少しこれは偏っているのではないかという意見もございましたので、それは自分なりに考えて判断いたしました。

前置きが長くなりましたけれども、国語でございます。国語は、先ほどの大田区学習効果測定結果に基づいた授業改善のポイントからしますと、やはり大田区の子どもたち全般、どの科目にも書いてあることなのですけれども、ある情報を分析して、それを自分なりに

まとめて発表する力が弱い、ということが全科目に共通しておるようです。

指定された文字数で書くことができる、ということが足りないのではないか。それから、先ほどから言われている漢字が書けないというところから考えて、ポイントは幾つかあるのですけれども、私は「J」を推薦したいと思います。

先ほどから、本のことが出ていますが、特に「J」の中では、「本の世界を広げよう」というところで、『多文化に出会うブックガイド』という本が紹介されておりまして、これはかなり私なりに興味を引いて、これは多分、私は中学生、若者の心も自分ではわかると思っておりますので、多分、中学生の子どもたちの興味を引くのではないかなと思っております。

以上のことより、「J」を推薦いたします。

## ○委員長

私は、「J」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、「おおた教育振興プラン2014」の学力向上アクションプランの実現に適していると考えました。学習の見通しを持つ、それから学習活動に取り組む、次の学習に生かすという学習の流れを基本にし、ねらいと振り返りを明確にし、身につけさせたい力が明確に示してあります。習得、活用を繰り返しながら、国語の力が身につくように展開してあります。先生方は教えやすく、生徒は学びやすい、そして基礎・基本が確実に定着すると考えます。また、本区で啓発している家庭における学習習慣の確立、自学自習の定着にもつながっていくのではないかと考えました。

第二に、全ての生徒に基礎・基本を確実に定着させたいという本区の方針に合っていると考えました。単元の終わりに、単元で習ったことの復習やまとめがあり、次に生かすようになっております。何度も繰り返して積み重ねるごとに言葉の力が身につきます。「学習を振り返る」、「次へつなげよう」、「生活に生かす」、「他教科に生かす」の欄が設定され、多様な取り組みで基礎的、基本的な知識、技能の確実な習得ができると考えます。

第三に、伝統文化の指導が充実していると思います。「季節のしおり」の欄が設定され、春・夏・秋・冬の季節の移り変わりの時季に合わせて、日本の四季にまつわる言葉、名画などが紹介されています。大田区の生徒にも季節感や日本語の表現の美しさを味わわせ、豊かな心を育てていきたいものです。

第四に、読書活動の充実は、大田区の重要な施策でもあります。その施策に適していると考えます。学力の向上や豊かな心の育成には、本好きな子どもの育成が基盤となると考えます。本を読む子と読まない子では、全ての教科において、読む子のほうが学力は高いという調査結果もあります。本の紹介や読書案内、読み物が充実していることで、学力が向上します。「広がる読書」や「読書案内」で読書の意欲を高め、読書への動機づけをしております。先生方や保護者の皆様方においては、さらに読書して、子どもにたくさんの本を紹介して、読書の大田にしてほしいと考えております。

第五に、「学習の窓」の欄が設定され、学習を通して身につけるポイントが明確にされています。また、巻末に文学的な文章と説明的な文章を読み取る基本的なポイントを整理し、具体的に理解できるように示してあるので、基礎的、基本的な知識、技術の習得に役立つと思っております。



第六に、大田区の生徒の課題である「書くこと」の活動が繰り返し設定されております。説明的な文章を学習で書き方を習得し、各単元の「学習」で螺旋的に繰り返し、書く力を確実に身につけることができます。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「J」社を評価する意見が多かったように思います。

「F」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「J」社であろうと思います。

国語について、「J」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、国語については、「J」社といたします。

#### ○委員長

続いて、書写について審議します。書写の発行者は、5社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、「E」を推薦させていただきます。

理由ですけれども、毛筆による習字の手本が、半紙実物大が8例、書き初めの見本が各学年2例ずつ6例紹介されており、手本が豊富に用意されている点です。生徒が学習する際に、そのまま活用できる点がよいと判断をいたしました。

以上です。

#### ○藤崎委員

私も、「E」社を推薦したいと思います。

今、教育長が言ってくださったことに加えて申し上げるのであれば、「書写の窓」等いろいろな意味での興味関心をどのように、書写は書くだけではないのですよというところで、広げていくのかということに加えて、基礎・基本という観点でいうと、筆運び等の細かな指導が多岐にわたってされているというのが、先ほどの教育長の内容にプラスアルファすることです。

結論は、私は「E」社ということです。

#### ○鈴木委員

まず、結論から申しますと、同様に「E」社を推薦したいと思います。

先ほどもお話がございましたが、まず基本についてですが、部位のバランスですとか、はね、流れなどは、まねる、学ぶということです。そういったことからして、手本は非常に大切であります。先ほどのお話のように、実物大の手本がよりしっかりと掲載されている。そして、多く掲載されているということです。いずれにせよ、お手本が実物大である

ということは、自主的に御自分が練習するときにも非常に役立ちます。

それから、掲載されている部分で、書くときの姿勢ですとか、腕の構え、筆の持ち方、筆の部位の名称や働き、墨のすり方、こんな細かいところがコンパクトなのですけれども、見やすい、わかりやすい構成で掲載をされているということでございます。

各社同様、実社会で役立つ、のし袋ですとか、願書ですとか、お手紙の書き方などが、掲載されておりますけれども、高校に向けて古典からの臨書（りんしょ）という書体がありますけれども、その書体を学びとして広げております。

あとは、ちょっと変わったところだと、篆刻（てんこく）ですとか、筆のつくり方なども加えて知識として入っております。

あと、知識といいますと、「書写の窓」というところがございますけれども、これも知識として非常に印象深いコラムを載せておりますので、結論として、「E」社を推薦いたしました。

以上です。

### ○横川委員

私は、「G」社を推薦いたします。

これは、冒頭に筆の持ち方、それから書き方、そういったのが冒頭に出ているのですが、全部の社のものを比較してみて、真横からの姿勢を写した写真が出ているのはこの「G」社だったと思いますので、やはりこれは中学生が見てよくわかるのではないかなと思います。

それから、この書写ですけれども、もちろん字を書くことは大事ですが、いろいろな背景、文化的な背景などもお勉強していただきたいと思ひまして、非常に「G」社については資料が多く載っているということで、そういったことから勘案して、「G」社を私は推薦いたします。

### ○芳賀委員

私は、「J」がよいと思ひました。

書道の見本としては、他社にもあるように、書き初めの大判の見本もついております。特に、遜色ないと思ひております。

また、手紙の書き方、はがきの書き方、ポスターセッション、職場訪問新聞などの実例が、矢印つきの注もつけて詳しく説明がありまして充実してございました。中学生たちの様々な活動の手引きになると思ひます。

また、巻末には、行書体と楷書体の二つの漢字一覧表が示されております。片方だけの教科書もあるのですけれども、これは両方あったほうが書体の違いも各自でわかるのでよいと思ひました。

それで、私は「J」社を推すことにいたしました。

以上です。

### ○委員長

私は、「E」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、使いやすい半紙原寸大手本で美しいです。中とじ製本になっているので、全体が見えやすく、文字の配置、配列が整いやすいです。イメージしやすく、効果的に学習できると考えます。授業時間数が少ないということを配慮すると、指導者も指導しやすく、生徒も学びやすいと思います。

第二に、基礎・基本を徹底する大田区に合っていると考えます。学習の進め方が設定され、試し書き、練習、まとめ書きまでの流れがわかりやすく見える化されて、生徒が主体的に学習に取り組めます。また、毛筆の学習内容を硬筆で確認できる「硬筆で書いてみよう」があり、学習内容が定着すると思います。

第三に、生徒が書写に興味関心を持って、意欲的に取り組む工夫として「書写の窓」があります。書写に関連する知識の紹介は、非常に興味深かったです。

第四に、習ったことを教科書に直接書き込んで、硬筆の練習を重ね、学習内容が定着します。

第五に、学ぶ意欲が「大田区教育委員会教育目標」、「おおたの子どもポスター」にも掲げられており、学ぶ意欲の高まる美しい教科書であると思います。美しい表紙から始まり、開きたい、手で触れたいと、興味関心の気持ちが高まります。文字、図、イラストなどが鮮明で、美しく学びやすいと思います。

以上です。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「E」社を評価する意見が多かったように思います。

「G」社と「J」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「E」社であろうと思います。

書写については、「E」社がよいということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、書写については、「E」社といたします。

#### ○委員長

続いて、社会（歴史）について審議します。歴史の教科書は8社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、「R」を推薦したいと思います。

理由ですが、まず第一に、最初の見開きから数ページにわたり「日本の美の形」が紹介されており、美を通して日本を知るという企画で、豊富な写真とともに日本文化の素晴らしさを学習できる点がいいと思いました。

第二に、歴史の学習において、学習者の興味を引きやすい女性を含む歴史上の人物を取り上げ、また、課題学習で「歴史人物Q&Aカード」を作ることを通して、人物を通じて歴史理解を深めようとするアプローチは評価できると思いました。

第三に、歴史を今日に生かすためには、内在的に理解する必要がありますが、「近代の日本と世界」の章では、当時の世界の情勢や日本が置かれた立場が理解しやすい叙述となっている点などが推薦をしたい理由です。

私からは以上になります。

## ○芳賀委員

私は、「K」がよいと思います。

大田区の平成26年度学習効果測定によりますと、社会科については、大田区の中学生は、地図や写真などの資料の読み取りの点数が低く出ております。したがって、統計資料や文献資料、年表などに触れる機会を多くして、それらの中からデータを引き出す力を育成することが必要とされております。「K」社の教科書は、それに一番適しておりますし、それは歴史を学ぶことの本質にもつながるものと思っております。

第一に、各教科書は、見開きページの中央部分に本文があり、その周囲に写真や図、資料等があるという構成となっております。そのうち、本文に周囲の資料等の番号を付して参照しやすくなっているものが、8社のうち4社ございました。「K」社もその一つであります。このような工夫は、私が中学生、高校生のときの教科書にはなかったものですが、確かに、あると非常に便利でした。

第二に、資料に触れて、そこからデータを引き出すことが大事ということがあるのですが、それは例えば、平等院鳳凰堂は平安時代であるとか、書院造は室町時代というような単純な結びつきを暗記するものではありません。与えられた資料から何を導き出すことができるかは一つの技です。「K」社の教科書は、それを生徒に意識的に身につけさせようとしています。各時代の冒頭には、大判の絵を示して、その絵から各時代の経済状況や技術の状況、文化、風俗の特徴などを読み取ることができるかというトレーニングの場としております。

また、各所に「技能をみがく」というコーナーがあります。例えば、島原の乱の時期の各文献資料を示しながら、幕府側に立って一揆軍に大砲を撃った外国船はどこ外国船か推理をさせ、そこから幕府とオランダ、ポルトガルとの関係を考えさせたりしております。

また、明治時代においては、「その後の歴史がどうなるか、当時の人の立場からすると多くの選択肢があります。結果を知っている私たちは、歴史を考えるさいには、現在と過去のどちらの立場で考えるかを確認することが大切です。」と説明した上で、明治の中江兆民の『三酔人経綸問答』の一部を引用して、生徒に明治時代であったなら、あるいは現在だったならどの立場をとるのかということを考えさせるなどしております。

さらには、ミッドウェー海戦に日本軍が勝利したという、今から見れば誤った記事を示し、情報の意図を読み解かせるということもしております。

歴史を学ぶとは、自分で考え分析することだと実感できます。こうやって養った能力は、社会に出た後も役に立ちます。なぜ歴史を学ぶのかを感じることもできる教科書だと思います。

それで、私は「K」社がよいと思いました。

以上です。

## ○鈴木委員

私といたしましては、結果として、「A」を推薦いたします。

8社ということで、非常に多ございますので、まず3社「A」「G」「K」に絞り比較をさせていただきました。しっかりと学習の課題が示されて、確かめる内容や説明するなどの学習の活動が示されているかどうか。全般的には、扱いやすく視覚的にわかりやすい構成であるか、そんなことも含めて考えました。

どれも興味関心や学習意欲が持てるように工夫されておりますけれども、「A」につきましては、細かいところをちょっと申し上げますと、中では、「ティーブレイク」、これはおもしろい話の紹介をいたしております。それから、「ためしてみよう」というところで、活動の促しをいたしております。それから、マークがいろいろあるのですが、「確認」のマーク、これは学びを深め、確認課題を示しています。「分野関連マーク」というのがございますが、地理や高学年の学習とのつながりを示しています。このことは、地理ですとか、地理のみならず、中を見ますと様々なところと関連付けた記載の事項がございます。「世界遺産マーク」「国宝・重要文化財マーク」というのがありますけれども、世界遺産や国宝、それから文化財をこれは示しております。今どきのこととしましては、「D」マークがございますけれども、コンピュータやインターネットの活用をしましょうということで、これも含めて示して、先生の指導に頼ることになりますけれども、学習を広めています。

それから、ほかにも「歴史スキル・アップ」ですとか、「調査の達人」ですとか、「歴史にアクセス」というのがございますけれども、女性に関しての「女性コラム」というのがあります。これは、活躍した女性に関してのコラムで、時代の背景をうかがわせるその時々の女性の活躍が記載されておりますけれども、こういった工夫がされております。

それぞれが各章の終わりに年表でまとめなどがありますが、「A」社につきましては、「この時代の歴史の学習を確認しよう」ということで、振り返りの問題を提示いたしております。縷々御説明申し上げましたが、様々なところで目についたところだけをお話申し上げます。

最終的には、「A」ということでございます。

## ○横川委員

私は、大変迷いましたけれども、大田区の中学生の学力向上にとって比較した場合、有効な教科書として「A」社を推薦いたします。

私は、「R」社を評価しておりますが、「R」社の教科書は歴史的な事実をきちんと捉え、正確に書かれていると思いました。しかしながら、資料の充実など、大田区の中学生の社会の学力を上げるという観点から見れば「A」社ということになりました。

以上です。

## ○藤崎委員

社会は相当迷いました。歴史にとどまらず、歴史、公民、地理、地図、全部含めてなのですが、ちょっと話がそれてしまうのですが、一つ一つの教科書を見ていくと、どれが一番優れているというのはなかなか見つからない。それはどの委員も悩むところだった

のです。これを取ればこっちも、これを取ればこっちも、というのがあって、最終的に私の個人的な基準として何を設けたかというところ、大田区の子どもたちのここを強化したい、と言っているところが、社会においては、一つの、歴史なら歴史ということに限らず、トータルで言えることは、つなぐ力が弱い。つまり、データをどう読み込むのか、それから資料等をどういう風に結びつけるのかというのが、どの社会の中の教科を見ても出てきている。というような観点から、私の中では、歴史、この後、議論されるであろう公民、地理、それから地図の読み込み、全てセットというふうな位置付けで今回は捉えております。

個々個別のことを言っていくと、いろいろとこれがある、あれがあるとは言えるのですが、その観点で見たときに、一番指導しやすい、ないしは子どもたちが混乱をきたさない、というのが基本的には一つの編集方針でなされたものがあるだろう、というのが最終的な結論になりましたので、今回の場合は、2社に絞った後、最終的には「A」社ということになります。

以上です。

### ○委員長

私は、「A」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、大田区学習効果測定の結果から、歴史分野の基礎的、基本的な知識、技能の向上は、最大の課題であります。残念ながら、大田区学習効果測定の結果が良くありません。「A」社は、生徒が歴史分野の課題解決に適した教科書と考えます。生徒の興味、関心を引き出す導入資料、1単位時間の学習の見通しを持たせる学習課題、そして本文、振り返りという流れになっていて、基礎的、基本的な知識、技能を確実に定着できる流れになっております。また、学習内容が定着するように、「この時代の歴史の学習を確認しよう」、「この時代の特色をとらえよう」が設定され、基礎・基本が確実に身につきます。また、1単位時間の内容を振り返る「確認」という欄があり、言語活動を通して学習内容が確実に定着できると考えます。

第二に、全ての生徒に基礎・基本を定着させたいとする大田区に適した教科書であると考えます。年表、地図、系図などの資料の具体的な読み取りなどの基礎的、基本的な技能を確実に身につけることができる「歴史スキル・アップ」というコーナーがあります。また、見開きの偶数ページの下に、どの時代を扱っているのかわかりやすいように、略年表が見開きごとに付いていて、時代の流れが把握できます。

第三に、「私たち歴史探検隊」の欄の中に、「調査の達人」の欄があり、調べる、考察する、まとめるなどの調べ学習のポイントが示され、大切な調べ学習の基礎・基本が確実に身につきます。

第四に、学ぶ意欲が「大田区教育委員会教育目標」、「おおたの子どもポスター」にも掲げられており、大田区の生徒の学ぶ意欲が高まる教科書であり、大田の生徒に合っていると考えます。紙面が大きく、見開きの上部には、学習内容を考えさせる資料、写真が豊富でバランスよく配置されており、わかりやすい構成になっております。また、見開きの2ページの本文の横に、資料が掲載されており、活用しやすくなっています。資料も見やすく、大田区で啓発している家庭学習の習慣にもつながります。

第五に、大田区の生徒の学力の向上に適していると考えます。学力の向上の重要なポイ

ントの一つは、授業の振り返りをしっかり行うこととされています。1単位時間の言語活動を通しての学習の振り返りの解説、章末には言語活動や書き込み式などを通しての「この時代の歴史の学習を確認しよう」の欄があり、繰り返し積み重ね、学習内容が定着します。

第六に、各時代の初めに、各時代を象徴する写真や絵画資料、イラストで時代をイメージする学習を行う「やってみよう」という欄が設定されています。また、各時代の初めに、その時代を把握しやすい資料が大きく掲示され、生徒が学習に引き込まれ、考える力が育つと考えております。

以上です。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「A」社を評価する意見が多かったように思います。

「K」社と「R」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「A」社であろうと思います。

社会（歴史）については、「A」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

#### ○委員長

それでは、社会（歴史）については、「A」社といたします。

#### ○委員長

続いて、社会（公民）について審議します。公民の発行者は7社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

公民につきましては、私は、「R」を推薦したいと思います。

理由ですけれども、6点ほど申し上げます。

まず第一に、教科書の見開きで、「私たちを取り巻く課題」を写真入りで取り上げ、今、社会でどのような切実な課題があるかを確認することから始めています。公民の学習においては、どのような公共的な課題があるかを知ることから始めるのは重要であると思いました。

第二に、教科書の冒頭で、「なぜ『公民』を学ぶのか？」が述べられていますが、わかりやすく叙述されていると思います。具体的には、個人の自由や権利の追求が重要であるとともに、他者のため、公のために努力する気持ちと、正しいと思ったことを実行する力を身につけることが大切であること。そのためには、基本的な知識や能力が必要であるとして、公民を学習する意義が明確に述べられています。生徒たちも、ボランティア活動などに積極的に取り組むようになっているのが現状ですから、導入として適切だと思しました。

第三に、「やってみよう」というコーナーでは、例えば「家族が生きてきた時代を調べよう」という探求的な課題が設けられていますが、家族という身近な存在を通して体験的

には知り得ない数十年前の過去の状況や出来事を把握しようとするものであり、それは同時に家族間のコミュニケーションにもつながるもので、興味深い取り組みであると思えました。

第四に、「考えよう」というコーナーでは、「男女の平等と家族の価値」をテーマとして取り上げ、多様な生き方、考え方が尊重される社会では、専業主婦の役割を含め、その価値が正しく評価される必要があること、あわせて最も身近で基本的なコミュニティである家族の大切さを説いており、家族のあり方が社会問題の一つとなっている今日の状況からすると、重要な指摘であると思えます。

第五に、権利の大切さとともに、義務と責任についてももしっかり叙述されています。ややもすると、ルールを無視して自分勝手な行動が目立つ今の時代においては、教育において、権利とともに義務と責任を問うことは必要なことであると思えます。次代を担う青少年を健全に育成することで互いに住みよい社会にしていく必要があります、大切な指摘だと思えました。

第六に、第4章「私たちの生活と経済」では、「世界に誇る『日本のものづくり』技術の多くは、中小企業がもっています」として、大田の町工場が写真入りで紹介されています。

以上が、私が「R」を推薦する理由です。

#### ○藤崎委員

私は、先ほども歴史のところでも述べさせていただいたとおりで、基本的には、歴史は歴史、公民は公民というのは分けられないと思っています。

公民を勉強する意味合いというのは、文言は違うという状態ですが、「A」社、先ほど歴史で申し上げましたが、「A」社の見開きのところにも出ており、そこにも書いてあるのですけれども、歴史のつながりの中、地理のつながりの中、要は年表ですとか、地図というものと絡めて物事を覚えていく、ないしは学んでいく、考えていく、というところが大切であるとそこに書いてありますし、私も今回は、そこを一番重要視しておりますので、個々に申し上げるといろいろな点があるのですが、一旦、そこを端折らせていただいて、一貫性ということで、公民と歴史というのを合わせて「A」社、ということで、公民は「A」社にしたいと思えます。

#### ○鈴木委員

私のほうは、学習指導要領の目標として、個人の尊厳と人権尊重や、民主政治の意義、それから現代社会についての見方や考え方の基礎を養うこととしております。また、世界平和の実現と人類の福祉など、現代の社会的事象に関する関心を高める等々が記載されています。そのことも含めまして、もう一つ、歴史と公民について、先ほど藤崎委員からもお話がございましたが、私も同一発行者の教科用図書を使用するか否か、そういったことも含めて検討いたしました。

結果としては、「A」を推薦いたします。

「A」では、「ちがいのちがいを研究しよう」というところのページで、「やってみよう」というのがあります。「G」も含めてそうなのですが、非常によくできているなと思



いますけれども、「G」の中では「言葉で伝え合おう」というところでディベートを促しております。今、非常にコミュニケーション能力も低下しているのだ、大人も子どももそうなのだということをよく聞きますけれども、そういった部分ではお互いに話し合う機会をたくさん持つことが大切なのだとかねがね思っております。こういった活動をたくさん促すことは、非常に子どもにとって基本のことだろうと考えております。

もう一つ、関心を持ちましたところは、実は、「A」で人権についてですが、「人権と共生社会」というページがございます。その中に、「深めよう」というのがございます。昨今につきましては、人権に関わる事案が非常に多く報道されている中で、特に人権感覚については、日常生活の中で育んでいくわけですけれども、ここでは身近な資料として、全国中学生人権作文コンテストの作品が取り上げられて載っております。非常に身近で、通常ですと子どもたちがたくさん読んでいただけるといいかなとは思っているのですが。第29回の作品で、部落の二世の生徒が書いた作品『一人でも多くの人に伝えたい』というものと、第23回の作品で、コリアンの三世の方が書いてくださった作品なのですが『友達が教えてくれたこと』というのを書いております。こういったものをたくさん参考にしていただくとよろしいかなというのが一つと。

あとは、「A」の部分で、「この章の学習を確認しよう」、この章で学習した用語を挙げ、どんな興味か自分の言葉で説明せよという、暮らしと経済についてのページがございますが、このところを私自身が「A」と「G」が非常に双方ともいいなと思っておりますので、果たしてどちらがよろしいかということで、最終結果の確認の部分で、興味を持って見させていただきました。うまくできない場合は、掲載ページへ戻って確認しようと指示をしております。用語については、「G」よりも多く、ほかの例題の内容も多いということから、最終的に「A」としたということでございます。

### ○芳賀委員

私も、「A」がよいと思います。

理由の第一は、周辺の図、写真、表、グラフなどの資料が大変豊富でして、しかも先ほど歴史のときにも述べたような意味で、対応する本文と周辺の図や何かとの関係が参照番号で示されておまして、参照しやすくなっております。

第二に、情報量が多くて文章の流れもよくなっております。新聞の社説を比較して、「メディアリテラシーを身につけよう」なんていうコーナーもつくられており、大変工夫されております。

したがって、私は「A」がよいと思います。

以上です。

### ○横川委員

私は、「R」社を推薦いたします。

選挙権が18歳となる近い将来、中学生にはきちんとした事実を学んでほしいと思っております。その点「R」社は、その事実、いいことも悪いことも含めてきちんと書かれているのではないかと思っております。

そういったことは、大田区の中学生だけではなく、日本全国の中学生にも、ぜひ勉強し

ていただきたいと思っております。

歴史についても同じことが言えると思います。私は歴史、公民ともに「R」社の教科書は、それらの項目や事実について正しいことを正面から捉えて書かれていると思います。

他の社については、いまだにその事実を無視しているか、ほんのわずかに載せているだけという会社もあります。その点、今後改めていただきたいと思います。

以上の観点から見て、「R」社が最もよいと考えて推薦いたしました。

## ○委員長

私は、「A」社を推薦いたします。理由は、次のとおりです。

第一に、大田区の生徒の実態に適している教科書であると考えます。1単位時間が見開きで、興味関心を引き出す導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成され、学習内容が確実に身につきます。写真、地図、グラフなどの資料が豊富で、資料の読み取りの視点も明確で、生徒の意欲を高め、確かな学力を身につけることができます。また、本文には、文の上に資料番号が付けてあり、学習内容が確実に理解できるようになっております。

第二に、学力向上を目指す大田区に合っていると考えます。「公民にチャレンジ」のコーナーが多数あり、個人やグループでの作業や活動を通して基礎・基本が確実に定着できると考えました。また、その時間で学習したことを確認したり、深めたりの「確認」があり、言語活動を通して学習内容が定着できます。さらに、各章の終わりには、言語活動を通して学習内容をまとめ、考える力や表現力などの基礎・基本を定着できるようになっております。

第三に、大田区の実態に合っていると考えます。調査学習を進める上での、基礎的、基本的な技能を身につける「調査の達人」が設定され、レポート作成のポイントが解説され、言語活動が充実しています。また、1単位時間の内容を振り返る「確認」という欄があり、言語活動を通して学習内容が確実に定着できます。

第四に、学ぶ意欲が「大田区教育委員会教育目標」、「おおたの子どもポスター」にも掲げられており、大田の子どもの学ぶ意欲が高まり、大田の実態に合っています。紙面が大きく、図、文章、資料が豊富でバランスよく配置されており、わかりやすい構成になっております。見開きの2ページの本文の横に資料が掲載されており、活用しやすいと思います。

第五に、大田区の生徒の学力の向上に適していると考えます。学力の向上の重要なポイントの一つは、授業の振り返りをしっかり行うことだと言われております。1単位時間の言語活動を通しての学習の振り返りの解説、章末には言語活動、書き込み式などを通しての「この章の学習を確認しよう」の欄があり、繰り返し積み重ね、基礎・基本が確実に定着できると考えました。

## ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「A」社を評価する意見が多かったように思います。

「R」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「A」社であろうと思います。

社会（公民）については、「A」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。  
（「異議なし」との声あり）

○委員長

それでは、社会（公民）については、「A」社といたします。

○委員長

続いて、社会（地理）について審議します。地理の発行者は4社あります。  
委員の皆様、御意見をお願いいたします。

○教育長

私は、「K」を推薦させていただきたいと思います。

その理由ですが、まず第一に、どの社も写真を多く取り入れています。その中でも各章の冒頭見開きで写真を多く紹介するなど、それぞれの国や地域、そしてそこに暮らす人々の生活をビジュアルに示す手段として、積極的に活用している点が挙げられます。また、写真の読み取り方も紹介しており、映像から様々な情報を得る方法を学べるようにしている点がすぐれていると思いました。

第二に、教科書冒頭の見開きページで、「世界に広がる日本の文化と技術」を紹介しており、生徒が自国に誇りを抱くことができると思います。

第三に、「世界のさまざまな地域の調査」という探究的な活動の箇所では、六つの視点を表にして示すなど、レイアウトが見やすく、また調査テーマの決定から展示発表の仕方まで、具体的な例示を含めてわかりやすく説明しています。

第四に、地理の知識や技能を使って、課題に自分なりにチャレンジするコーナーが2例用意されていますが、例えば、「ハザードマップを使ってみよう」では、その活用法を具体的な事例に即して詳しく説明しており、自然災害への備えが欠かせない日本で、次代を担う生徒たちがこのような取り組みをすることは、とても大切なことであると思いました。

以上が、「K」がよいと判断した理由です。

○芳賀委員

私は、「G」がよいと思いました。

第一に、全体の構成が明解であり読みやすくなっております。また、「地理の窓」というコラムが各所にあるのですが、それも充実しております。さらに、生徒たちに自分で、世界の略地図や日本の略地図を書かせるというコーナーもありました。これは皆さんも自分で書いてみるとわかると思うのですが、自分が思っている世界というものに対する知識が偏っていることを自覚させることになるので、非常によいことだと思っております。

第二に、4社の教科書を比較・検討しているうちに気が付いて少し驚いたのですが、要するに北朝鮮に関する記述についてです。ほかの3社の教科書は、38度線で分断されているという話を載せている教科書があるくらいで、ほかには北朝鮮についての記載が見当たらないのです。その点、「G」社は北朝鮮についての項目があって、それに関する

るまとまった記述もあります。これは恐らく、学習指導要領が関係しているのだと思います。学習指導要領は、アジアやアフリカなど、州ごとに地域的特色を大きく捉えさせて、その上でテーマを設けて地域的特色を理解させるようにすること、ということを目指しています。そこで、アジア州については、各教科書は、例えば「多様性と経済発展」とか、「巨大な人口と急速な経済発展」といったテーマを設定しています。したがって、目立った経済発展がない北朝鮮の記述がなくなりがちになったのだと思います。しかし、北朝鮮は日本の隣の国ですし、現在の日本の政治や外交にも大きな影響を与えている国です。ニュースにもしばしば登場します。日本の中学生が学ぶ教科書では、それに関する記述があるのが普通だし、必要だと思います。

したがって、私は「G」がよいと思いました。

以上です。

### ○藤崎委員

今の芳賀委員の意見、ないしはその事実ですね、北朝鮮についての表記の事実というのは、非常に驚くべき、という言い過ぎですが、興味深い点だったと思います。逆に言うと、やはり教科書によって、濃・淡と違いますか、非常に特徴が出ているところでありまして、先ほどの繰り返しになりますが、ここを取ればこっちがいい、ここを取ればこっちがいいとなると、ではどっちに重要度をつけるのかということになっていきますので、私の意見を言わせていただくと、先ほどと同様で、あくまでも社会というのは、公民と歴史と地理と地図は切り離せない。どこに対してどうなのかという、全部影響している。多分にこれは教科書だけでカバーできないのは、十分わかっています。最終的には、先生の指導力ということに関わってきますし、そこに対して教育委員会として何かアプローチをしないといけないのですが、それを題材として、教科書で教えるということを考えるのであれば、やはりここは歴史、公民と切り離せないという観点から、先ほどの繰り返しになりますが、地理においても「A」社というのが、私の推薦する理由になります。

以上です。

### ○横川委員

私は、「K」社を推薦いたします。

大田区の中学生の学力、社会は平均に近いということで、現時点では変える必要がないのではないのかなということと、資料が非常に整理されていて見やすいということ。それから基本的な知識の習得のところで、「確認しよう」というところがあって、その後の考えの発展的なことに関しては、思考力、判断力、表現力、そして、それは「説明しよう」というところで、育成するようになっております。

ほかにも幾つかあるのですが、先ほど、藤崎委員からの意見で出ていますように、他の社会の科目との関連ということでもありますと、次に出てくる地図ですね、そことの関連との絡みもありまして、私は「K」を推薦いたします。

### ○鈴木委員

結論として、私は、「K」を推薦いたします。

「K」については、まず学習課題を示しておきまして、「確認しよう」で基本的知識の習得を図ることとしています。先ほどから、皆さんから御意見が出ておりますが、大田区の中では、まずは基本・基礎をしっかりと学ぼうということが言われております。「説明しよう」というところがありますが、思考力、判断力、表現力を育成するという一方で、言語活動も促して、それぞれが写真も鮮明であり、中にはヒートアイランドや防災のコラムなども興味を引くものとなっております。

それから、領土問題についても、「A」「K」とも同様に、「日本の領域の特色を見よう」ということで、排他的経済水域についても掲載しておりますけれども、こういったところも、領土について、領空それから領海の領域図も含め、非常にわかりやすい構図となっております。

今、非常にメディアですとか、様々なニュースが流れます。そういったのも含めて、子どもが過去を見て、現在はどうであるか、現況を把握し、これからの世の中に向かってどういうふうにしていったらいいだろうという、たくさんの知識、それから学びを得て、関心を深めていただくことがよろしいかなと思っております。

結論としては、「K」を推薦いたします。

#### ○委員長

私は、「K」を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、1単位時間の学習の流れ、興味関心を引く導入、本文振り返りと明確に示し、着目のポイントまで明示してあるので、学習内容が定着すると考えました。また、「確認しよう」、「説明しよう」、「資料活用」、「探究しよう」を通して、言語活動が繰り返し行われ、基礎的、基本的な知識や技能を習得できるようになっております。さらに、学習の振り返りを重視して、学習内容が定着すると思えます。

第二に、教科書の資料や地図帳を活用して作業するなどの学習活動の「やってみよう」は、生徒が興味・関心を持って穴埋めや書き込み作業を繰り返し、学習内容が身につく、学力向上に役立つと思えます。

第三に、大田区の子どもの実態に合っていると考えました。技能を磨く欄が数多く設定され、資料の読み取り方、レポートの作り方など、地理学習の基礎的、基本的な技能を身につけるとともに、知識を活用するための技能を身につけられると考えました。

第四に、学習したことを自分の言葉でまとめて表現させる活動が多く、大田の子どもの実態に合っていると考えました。

第五に、見開き1テーマで、図版、写真、イラストも大きくて見やすく、地理への興味・関心が高まると考えます。生徒が親しみやすく、学習意欲が高まります。

第六に、着目のポイントを明示し、「なぜ」を抱かせる資料の掲載など、自主的な学習への取り組みの工夫があると考えました。

以上です。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「K」社を評価する意見が多かったように思います。

「A」社と「G」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「K」社であろうと思います。

社会（地理）については、「K」社がよいということでもとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

#### ○委員長

それでは、社会（地理）については、「K」社といたします。

#### ○委員長

続いて、地図について審議します。地図の発行者は、2社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、「K」を推薦させていただきます。

理由ですが、第一に地図の色使いが濃い目で、境界線などが判別しやすい点が挙げられます。

第二に、地図帳の使い方として、地域の特色を捉えるポイントを地図や地形図から読み取るノウハウを、具体例を通して丁寧に説明しており、地図から様々な情報を読み取る力の育成につなげています。

第三に、東アジアと日本との関係を示す地図において、大陸から日本を見渡す地図を掲載している点に特徴があります。固定的な視点は、定型的なものの考え方につながりますが、他国の視点で見ることによって、違った物の見方の存在に気付くことができ、グローバル社会において他国と競ったり協調したりする上では、相手方の考え方を知る上で、極めて大切な学習であると思いました。

第四に、現在の東京都の中心部と江戸時代の東京が同じページに掲載されており、比較対照しながらその違いを確認することができる点が特徴として挙げられます。

以上が、私が「K」を推薦する理由でございます。

以上です。

#### ○芳賀委員

私も、「K」がよいと思います。

「K」と「A」の2社択一なのですが、両方とも非常に工夫している地図で、それぞれ甲乙つけがたいところがあるのですけれども、あえて違っている点で興味を引いたというところを申し上げますと、今、教育長もおっしゃったとおり、大陸側から日本を見た地図、というのも見開きで出ているのですけれども、いわゆる環日本海の地図なんて言ったりするときもあるようですが、やはりこういう視点というのは大事なのだろう、時々ものごとをひっくり返してみるとというのは非常に大事なことですので、こういう視点を提供するというのは、大切なことだと思っております。

それから、あともう一つ具体的な例を言いますと、海にいろいろなものを書き込むかというところに差がございます。例えば、大西洋の地図なんかを見ると、「A」社のほうの海はきれいなのですね。ところが「K」社の海には、コロンブスが行った航路が出て戻っ

てみたりとか、タイタニックが行って沈んだ場所とかの航路が書いてある。あるいは、太平洋からインド洋にかけては、日本からクウェートまで行くと19日かかりますよ、なんていうことが航路と重ねて書いてある。デザイン的には、ひょっとしたら海はきれいなままのほうがいいのか、という感じもしなくもないのですけれども、知識としてそういうものがあつたほうが、子どもたちの興味を引くのではないか、知識としても大事だと思います。例えば、日本とクウェートはどのぐらいの日数がかかるのかなんていうのは、いろいろな意味で身につけておくといい知識だと思っております。

そういう点も含めて、「K」のほうが参考になる情報が多いなと思ひまして、私は「K」を推薦いたしました。

以上です。

### ○鈴木委員

今、お二人の委員が発表していただきましたが、重複すると思ひますけれども、私も結論的には、「K」を最終的に推薦いたすことにしました。

お話の中にありましたように、東京都のページについて、非常に色分けをされていて、区の境がはっきりわかると。それで隣に江戸時代の東京を並べて示してあります。現在と比較する楽しさもあつて、非常に興味深いかと思ひました。

それから、学習課題としての「地図を見みる目」や「やってみよう」ということで、学習活動を引き出す工夫をしてあります。単なる地図ということではなく、学習の広がりがあるということをございます。

それから、先ほど芳賀委員から海の話がございましたけれども、日本列島の地図でも、島嶼（とうしょ）の位置関係が非常にわかりやすい。その海の中に、竹島、国後ですとか、尖閣についての写真がポイントではめ込まれているのですけれども、領土、領海、領空の範囲の模式図も含めて掲載をして、非常によくできているなど。そんなことで「K」といたしました。

### ○横川委員

私も、「K」を推薦いたします。

先ほどから御意見が出ていますけれども、大変見やすい。全体的に色が濃くて、立体的に見える。ある意味これは、私も目が慣れていていませいもあるかもしれません。

それから、地図から得られる情報というのは、本当に地形だけではなくて、先ほど芳賀委員がおっしゃつたように、歴史的なことも書いてあつて、私のことを申し上げて申し訳ありませんが、私の手元にも中学生の地図が置いてありまして、家に。テレビで大河ドラマなんかを見ると、地図を見ながら歴史も見ていふということ、子どもたちの興味を引くのではないか、そして地図を広げることによつて、いろいろな知識がどんどん興味が湧いてくる、ということからしまして、「K」を推薦いたします。

### ○藤崎委員

私の考えは、地図単独で語つてもしょうがないという、またさっきの話に戻つてしまうのですね。

地図も、もちろんこの中には地図だけではなくいろいろな情報が入っている、それは事実です。それは両社とも入っている。そういう観点で言うと、地図をどう活用するかということで、活用するものが一番多いのは何かということ、最終的に私は歴史も公民も地理も地図帳が必要だと思っているのですが、一番関連性が高いのはその三つの中のどれかということと地理になってきますので、当初の考えでいくと「A」社ということなのですが、地理が皆さんの御審議の中で「K」社に決まる、ないしは「K」社のほうが多いということであれば、地理と地図は少なくとも切り離すというのはあまり得策ではないと、指導する上で、と思っていますので、今の段階では「K」社を推したいと思います。

### ○委員長

私は、「K」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、地図帳の基本的な使い方、活用の仕方が具体的に記述してあり、使いやすいと考えました。例えば、北陸3県を例に地域の特徴を捉えるポイント、読み取りのポイント等が示してあります。「おおた教育振興プラン2014」で重視している、家庭での自学自習にも役立つと考えました。

第二に、地図の色が、鮮明ではっきりしていてわかりやすいです。例えば、山や平地、等高線などです。また地図の色合いがよく、美しく、地形が捉えやすいと考えました。

第三に、見た目が美しいです。地図はやはり見た目も大事かなと。また、基本図、資料図の種類も多く、グラフや写真、図が多く掲載され、生徒が学びやすく、また活用しやすいと思います。

第四に、「地図をみる目」、「やってみよう」というコーナーもあり、地図活用の技能が身につくと考えました。生徒が興味・関心を持って取り組むことができます。

第五に、資料が豊富で調べやすく、整理されているので活用したいと思います。

### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「K」社を評価する意見が多かったように思います。

「A」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら評価する意見が最も多かった「K」社であろうと思います。

地図については、「K」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

### ○委員長

それでは、地図については、「K」社といたします。

### ○委員長

以上で、本日の教科書採択についての審議を終了します。

次回は、明日8月6日(木)午後2時に開催する臨時会において、数学、理科、音楽(一般)、音楽(器楽)、美術、保健体育、技術・家庭(技術)、技術・家庭(家庭)、英語の9種目について審議を行います。各委員は引き続き調査研究をお願いいたします。

なお、平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択については、議案の決定をもって



なされるため、明日の審議終了後に議案の提出がなされ、議決をいただく予定でありますことを申し添えます。

では、ここで約30分間、午後4時10分まで休憩を取ります。指導主事及び指導課管理係職員は、退席してください。

(指導主事、指導課管理係職員退席)

( 休 憩 )

#### ○委員長

大変お待たせいたしました。それでは、再開します。

日程第3について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第3は、「部課長の報告事項」でございます。どうぞよろしくお願いたします。

#### ○委員長

それでは、部課長の報告をお願いします。

#### ○副参事（教育政策担当）

資料）平成28年度放課後ひろば事業の新規開設予定校について

私からは、平成28年度放課後ひろば事業の新規開設予定校について御報告を申し上げます。小学校における放課後ひろば事業について、平成28年度より、以下11校にて実施をする予定で準備を進めているところでございます。

大森第一小学校、大森第三小学校、大森東小学校、馬込小学校、池上第二小学校、清水窪小学校、東糀谷小学校、仲六郷小学校、相生小学校、おなづか小学校、東蒲小学校でございます。それぞれ、既に放課後こども教室が開設されているところもでございます。この場合には、学童も設置をするという方向で進めております。

実施までの主なスケジュールです。平成27年9月中旬以降、運営事業者公募・選定をいたします。11月上旬には学童保育申請説明会を始めます。年内には運営事業者を決定したいと思っております。年が明けましたら、4月実施に向けてそれぞれ事業の準備に入る予定でございます。私からは以上でございます。

#### ○委員長

ありがとうございました。

#### ○大田図書館長

資料）図書館の休館日変更について（報告）

私からは、図書館の休館日の変更について御報告をさせていただきます。休館日を変更する図書館は、蒲田駅前図書館でございます。当図書館におきましては、併設する消費者生活センターが、休館日に館内一斉に消防設備点検及び殺虫消毒を実施するため、それと合わせまして蒲田駅前図書館の休館日を、9月17日（木曜日）から9月14日（月曜日）に

変更するものでございます。私からの報告は以上でございます。

#### ○委員長

ありがとうございました。ただいまの御報告に御意見、御質問はありませんか。

では、私のほうから一つ。この4月にスタートした放課後子ども教室の様子を報告していただければありがたいなと思います。

#### ○副参事（教育政策担当）

大きな事故はなく、1学期無事に終了することができました。これも学校の校長先生をはじめ、先生方と実施事業者が子どもたち一人一人の状況について十分に情報交換をし、いきいきとした活動が行えるよう連携してきた結果だと思えます。本事業の最大の目的であります「安全・安心な居場所づくり」がこれからも継続できるように努めてまいります。

また、本事業の目的といたしましては、子どもたちの主体性ですとか、社会性の育成がありますが、例えば、様々なプログラムを用意した中から自分がやりたいと思うものを選ぶ、それから、自分で宿題を先にやってから遊ぼうとか、自分でルールを持って活動に参加をしている様子が見られました。あるいは、指導員などのちょっとした心がけ、アドバイス、これを得て、学年の異なる子どもたちが球技に取り組んだりして、上級生が下級生を思いやり、あるいは下級生は上級生を格好いい、この技術を身につけてやろうというチャレンジをして、非常に難しかった技を習得したりという体験も得られました。

現在、きょうだいによる切磋琢磨は、なかなか家庭の中では行われてこないということを考えますと、非常によい結果が得られたのかと思えます。もちろん課題もございまして、例えば、雨の日に居場所が非常に混み合ってしまうということもあって、どんな場所で活動したらいいのかという確保が悩みであります。また、プログラムのレベルアップといったことについても一生懸命考えていかなければいけない、あるいは地域の方々との連携といったことについては、今後も事業を安定的に運用しつつも、やはりチャレンジをしていかなければならないところだと考えております。以上でございます。

#### ○委員長

ありがとうございました。ほかに御意見、御質問はありませんか。

それでは、承認してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

#### ○委員長

承認いたします。

続いて、日程第4について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第4は、「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

「第55号議案 平成27年度第二次補正予算要求原案について」

以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長

それでは、第55号議案について、事務局から説明をお願いいたします。

○教育総務課長

私からは、第55号議案 平成27年度第二次補正予算要求原案について御説明いたします。大森第四小学校改築に伴う仮設校舎借上げに係る債務負担限度額については、平成27年度から平成31年度までの期間、4億3,065万円としているところでございますが、資材の価格上昇等の要因により、4億5,576万円とする必要が生じました。

そこで区長に対して予算要求をいたしたく、本案の御審議をお願いするものでございます。私からは以上でございます。

○委員長

ただいまの説明に対して御意見、御質問はありますか。

(「なし」との声あり)

○委員長

第55号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

第55号議案について、原案どおり決定いたします。

これもちまして、平成27年第8回教育委員会定例会を閉会します。ありがとうございました。

(午後4時18分閉会)